

# AIが予測する参院選、投票率はどう動くか？

～48.3%の停滞か、62.0%の地殻変動か。3つのシナリオが示す日本の針路～

ライフデザイン研究部 主席研究員/テクノロジーリサーチャー 柏村 祐

## 1.岐路に立つ日本の民主主義と「沈黙の民意」

参議院選挙の日程が、7月3日公示、20日投開票と決定された。日本の未来を左右する政治決戦の幕が上がろうとしている。政治への根強い不信感が蔓延し、選挙における投票率の低迷は、もはや日本の民主主義が抱える構造的な課題である。特に若年層の政治離れは深刻であり、「誰がやっても同じ」という諦めにも似た空気が社会に漂う。しかしその一方で、物価高騰に見合わない賃金水準や緊迫する国際情勢は、これまで政治を遠い世界のことだと感じていた人々の当事者意識を揺さぶり始めている。

7月20日の投開票日に示される結果は、単に与野党の議席数を決めるだけのイベントではない。その投票率の多寡は、選挙後の政権運営や政策決定に影響を与える「民意の圧力」を可視化する、極めて重要なバロメーターである。果たして、沈黙を続けてきた民意は動くのか。それとも、政治への無関心という現状が追認されるのか。

本レポートは、最新のAI技術を用いて、過去の選挙データ、経済指標、そして社会の関心事を映し出す様々な公開情報を分析するものである。これにより、起こりうる3つの投票率シナリオを提示し、それぞれの背景にある要因と、その結果がもたらす国政へのインパクトを多角的に予測する。これは未来の予言ではなく、私たちがどのような未来を選択しうるのかを示す「思考の羅針盤」である。

## 2.AIによる投票率予測(3つのシナリオ分析)

本分析にあたり、AIは過去の国政選挙における投票率や内閣支持率、物価や雇用といった経済指標に加え、現代の世論を形成する多様なデータを横断的に学習した。この複合的な分析により、過去のパターンを踏襲しつつも、現代特有の世論のうねりを捉えた3つのシナリオを提示する(図表1)。

図表 1 AIによる3つの投票率シナリオ概要



資料: Google AI Studio より筆者作成

### 1)「無風・低位安定」シナリオ(予測投票率 48.3%、発生可能性 50%)

発生可能性が最も高いこのシナリオは、近年の参院選（2019年、投票率48.80%）に見られるパターンである。AIの分析によれば、国民の生活課題は山積しているものの、与野党ともにそれを明確な争点として提示できず、有権者の間に「選択肢の不在」感が広がる。内閣支持率は低くとも、野党への期待も高まらず、政治全体への諦めが投票行動を抑制する。結果、強固な組織票をもつ与党や業界団体の支援を受ける候補が相対的に有利となり、選挙結果は現状維持に近いものとなる。

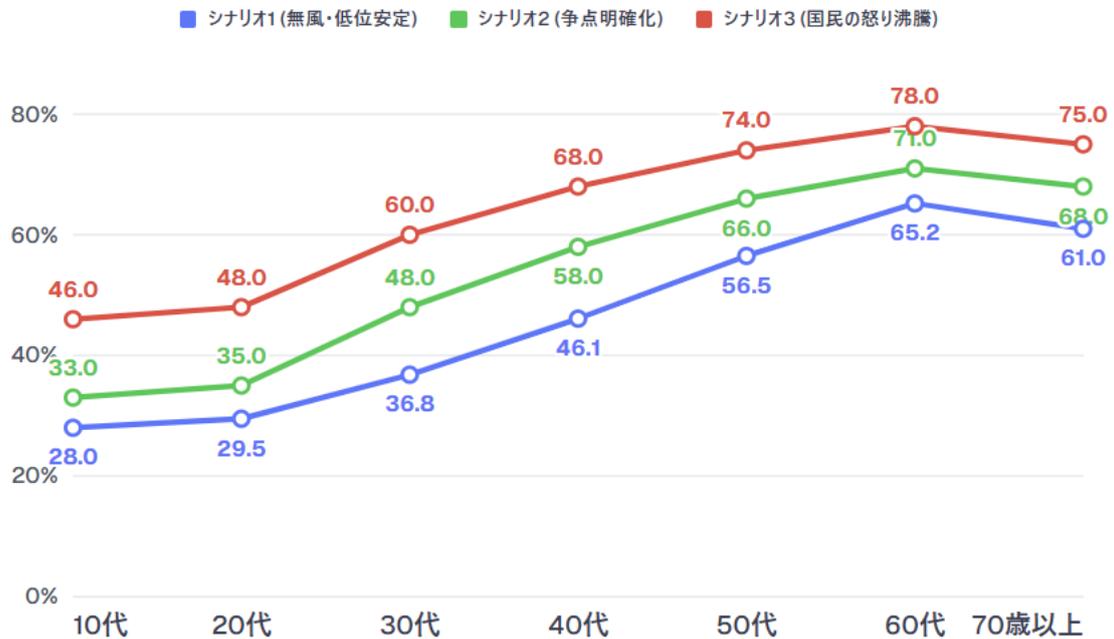
### 2)「争点明確化」シナリオ(予測投票率 55.2%、発生可能性 35%)

このシナリオは、2010年代の参院選の平均的な水準（2016年、54.70%）を想定したものである。「減税か、財政再建か」「防衛力の強化か、平和外交の重視か」といった、国民の価値観を二分するような対立軸が選挙戦を通じて明確になることで発生確率が高まる。AIの分析では、社会で交わされる活発な議論が、これまで政治に距離を置いていた無党派層や若年層の関心を喚起し、「自分の生活に関わる重要な選択だ」という意識が投票行動に繋がる。

### 3)「国民の怒り沸騰」シナリオ(予測投票率 62.0%、発生可能性 15%)

発生確率は低いものの、政治を根底から揺るがすポテンシャルを秘めたシナリオである。AIは、このシナリオの引き金として、選挙期間中に発覚する大規模な政治スキャンダルや、国民の生活防衛ラインを超える急激な物価高騰などを挙げる。社会的なムーブメントとして「選挙に行こう」という機運が爆発的に高まり、「現状へのNO」という強い意志が世代や支持政党を超えて共有される。このレベルの投票率は、歴史的な転換点となった選挙（1989年、65.02%）で見られる水準である。

図表2 AIによる年代別投票率のシナリオ別予測(単位:%)



シナリオ別 全体投票率



資料: Google AI Studio より筆者作成

AIによる年代別の投票率予測は、各シナリオの性格をより鮮明に描き出す。シナリオ1では、若年層の投票率が極端に低く、世代間の投票行動の差が際立つ。シナリオ2では、特に30代・40代の現役世代の投票率が大きく上昇し、政治的な争点が生活に直結していると認識された様子が見えてくる。そして最も注目すべきはシナリオ3である。ここでは全世代で投票率が上昇する中でも、SNSでの情報拡散に敏感な10代・20代の若年層の伸びが著しい。これは、社会の大きなうねりが、主権者教育を受け、これまで政治に最も遠いとされた層を動かす起爆剤となる可能性を示唆している。

### 3.AIによる投票率予測をどう受け止め、どう活かすか

AIが提示する未来予測は、客観的なデータにもとづく確率論であり、決して運命を決定づける予言ではない。AIは過去のパターンから未来を推定するため、選挙戦終盤に突如として現れる「風」や、人々の心を動かすリーダーの「言葉の力」といった、

定量化できない要素までは織り込めない。予測の限界を認識することは、AI と正しく向き合うための第一歩である。

今回の分析が浮き彫りにしたのは、投票率は政治家、メディア、そして有権者自身の行動によって変動するものだという点である。低投票率は、政治家にとって「国民は現状を是認している」という都合の良い解釈を許し、民意から乖離した政策を押し進める口実を与えかねない。一方で、投票率の上昇は、それ自体が政治家に対する強力なメッセージとなり、民意を無視できない状況を生み出す。

AI の予測は、「どうせこうなる」と傍観するための材料ではなく、「望む未来を引き寄せるために、何ができるか」を考えるための羅針盤として活用すべきである（図表 3）。

図表 3 AIによる投票率予測の理解と活用



資料：筆者作成

#### 4. 私たちの1票が、この国の景色を変える

投票に行くか、行かないか。その一見個人的な選択は、日本社会の未来を方向づける、極めて重い意味をもつ政治的な意思表示である。

低投票率は、政治家への「白紙委任状」に等しい。それは政治の緊張感を失わせ、私たちの声が届きにくい政治風土を醸成する。その結果は、生活実感からかけ離れた政策や、将来世代への負担の先送りという形で、やがて私たちの暮らしに跳ね返ってくる。AIによる分析は、私たちの政治への関心の高まりが投票率を押し上げる可能性を示唆している。

有権者一人ひとりに求められるのは、目先の公約だけでなく、この国の民主主義の健全性という、より大きな視点から自らの行動を決定することである。

AIが示した3つの未来。そのどのシナリオを現実のものとするのか。その選択権は、メディアの報道を受け止め、意見を交わし、そして最終的に投票所に足を運ぶ、私たち一人ひとりの手の中に委ねられている。